

この間運用面をみると、国内株は各社とも鉄鋼、化学等大型株を引き続き買い進んだほか、当月は外人売りの損保株等を大量に肩代わり購入したこともあり、月中買超額は311億円と前月(411億円)に次ぐ高水準となった。一方、外国株は5ヵ月連続の売越し(11億円、前月7億円)となった。

6月の公社債投信の元本純増額は、非課税限度枠引上げ後初のボーナス月を迎えて各社いっせいに販売姿勢を強めたため、318億円(前月171億円)と公社債投信発足当時(36年1月460億円、同2月340億円)以来の高水準となった。この間運用面では、前月に引き続き元本純増額のほとんどを高利回りの債券購入に充当する動きが目だった。

## 実体経済の動向

### ◇ 5月の出荷は増加

(生産—3ヵ月ぶりに増加)

5月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、+1.8%と3ヵ月ぶりに増加した。これには、石油化学など一部業種の増産体制持続や原油入着増に伴う石油精製の大幅増加なども寄与しているが、前月の生産がストライキ(電気機械)やモデル・チェンジに伴う不円滑(乗用車)などから実勢以上に減少したことの反動増による面も大きく、基調としては内需不ぞえを背景に引き続き減少傾向にあるものとみられる。ちなみに、製造工業の生産予測指数(季節調整済み、前月比)によると、6月は-2.6%と減少に転ずるものと予想され、これを用いると、4~6月期は前期比-2.0%(1~3月期同-2.1%)とかなりの落込みが続く見込みとなっている。

5月の動きを財別にみると、非耐久消費財(服類、中衣・下着等)が生産調整を映じて減少したほかは、耐久消費財(カラーテレビ、電気冷蔵庫、

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	48年				49年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業	127.9	131.2	135.1	132.3	130.8	129.3	131.6
指数							
前期(月)比	3.9	2.6	3.0	-2.1	-1.8	-1.1	1.8
前年同期(月)比	18.6	18.1	16.2	7.4	4.4	3.3	2.4
投資財	5.7	5.0	4.7	-2.8	-1.2	-0.1	2.8
資本財	6.4	7.1	6.0	-3.5	-0.4	1.5	3.5
同(輸送機械を除く)	9.8	9.3	8.0	-5.5	1.2	4.0	4.5
輸送機械	1.3	1.4	2.2	-0.5	-2.7	-1.4	—
建設資材	4.4	0.4	1.5	-1.4	-3.9	-3.2	1.5
消費財	2.1	2.0	2.1	-2.1	-3.2	-0.8	4.9
耐久消費財	2.2	1.0	2.0	-1.2	-2.0	-8.2	8.5
非耐久消費財	1.4	2.7	2.4	-2.5	-4.0	4.4	-2.1
生産財	3.3	1.0	2.2	-1.1	-2.1	-1.7	0.2

(注) 1. 通産省調べ、49年5月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

乗用車<1000~1500cc>等)、建設資材(橋りょう、セメント等)が上記のような反動もあって増加に転じ、また、一般資本財(金属工作機械、電卓、ポンプ、トラクター等)も出荷の増勢持続を映じて前月に続き増加した。

(出荷—増勢を回復)

5月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、+1.9%と船舶の出荷集中がみられた前月(+2.5%)に続いて増加した。フレの大きい船舶を除いてみると、2月以来3ヵ月連続して減少傾向を続けていたが、5月は+2.6%と徐々に増加した。これは、これまでの急激な落込みの反動増という面があるほか、輸出向けが一段と増勢を強めたこと(鉄鋼、化学)、さらに、一部で先行きの消費需要回復期待から流通段階で在庫積み増しがみられたこと(家庭電器、自動車等の一部)などによるものである。

財別にみると、生産財(段ボール原紙、合成繊維、毛織物、ガラス製品等)が微落したほか、非耐久消費財(眼鏡、メリヤス下着等)もかなりの減少となったが、これまで急角度の落込みをみていた耐久消費財(電気冷蔵庫、ステレオ、電子レンジ、乗用車等)はディーラー筋が大幅ベア・大型

ボーナスを契機とした需要回復を期待して在庫積み増しを図る動きをみせたことなどから著増、また、一般資本財(金属工作機械、ポンプ、電卓等)、建設資材(橋りょう、棒鋼、陶磁器等)は民間設備投資の回復傾向などを映じ増勢を継続した。

(製品在庫—引き続き増加)

5月の生産者製品在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、+4.4%と4ヵ月連続して大幅増加となった。業種別にみても、輸出好調の鉄鋼等ごく一部を除きほぼ全業種において増加している。これは、需要の急速な減退から在庫の積み上がりをみていることが主因であるが、化学、石油精製等生産財の一部では、これまで在庫水準がとくに低かったことから、意図して積み増しを図っていることも響いている。

この結果、鉱工業生産者製品在庫率指数(速報、季節調整済み、45年=100)は、110.7と前月比2.6ポイント上昇、その水準も47年4月(111.5)ごろの水準に近づいた。

(原材料在庫—4月は微増)

4月の製造工業原材料在庫(速報、季節調整済み)は、1~3月にかなりの増加をみた(前期比

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	48年		49年		49年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業	129.7	132.2	136.2	130.9	123.6	126.7	129.1
前期(月)比	3.7	1.9	3.0	-3.9	-5.4	2.5	1.9
前年同期(月)比	18.5	16.6	15.3	4.2	-1.6	-0.2	-1.8
投資財	6.6	3.8	4.5	-6.0	-7.4	11.0	2.3
資本財	7.9	6.3	5.4	-6.9	-7.2	15.9	2.3
同(輸送機械を除く)	10.0	8.7	8.0	-6.5	0.9	2.8	5.8
輸送機械	5.0	1.3	2.2	-8.0	-22.4	46.3	—
建設資材	4.7	0.2	2.1	-5.6	-7.6	1.6	2.7
消費財	0.4	1.8	3.1	-3.4	-5.8	-2.6	10.5
耐久消費財	1.2	2.7	2.0	-4.8	-8.9	-8.4	17.7
非耐久消費財	-0.4	1.1	3.8	-2.0	-4.5	1.9	-1.5
生産財	3.8	0.4	2.5	-3.1	-4.1	-0.4	-0.5

(注) 1. 通産省調べ、49年5月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	48年(期別)			49年(期別)	49年(月別)		
	6月	9月	12月	3月	3月	4月	5月
鉱工業	114.5	117.4	117.0	127.8	127.8	136.9	142.9
前期(月)末比	0.6	2.5	-0.3	9.2	6.4	7.1	4.4
前年同期(月)末比	-3.3	-0.7	1.4	12.3	12.3	19.4	24.4
製品在庫率	87.6	88.4	87.6	103.4	103.4	108.1	110.7
投資財	1.2	5.8	8.4	16.4	8.3	10.4	3.9
資本財	1.7	8.3	13.9	19.2	7.0	13.0	5.1
同(輸送機械を除く)	0.1	8.5	13.7	16.6	6.5	9.8	4.5
輸送機械	12.8	7.0	10.8	38.7	13.3	32.7	—
建設資材	0.3	2.9	2.6	13.1	10.4	7.2	2.8
消費財	2.5	2.2	-3.2	4.6	5.5	8.3	4.6
耐久消費財	3.3	-0.2	-4.2	8.9	10.5	11.4	4.0
非耐久消費財	2.0	3.6	-2.4	1.8	2.2	5.5	6.0
生産財	-1.2	1.7	-2.8	9.2	6.7	4.5	4.9

(注) 1. 通産省調べ、49年5月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

## 製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

	48年(期別)		49年(期別)	49年(月別)		
	9月	12月	3月	2月	3月	4月
在庫指数	129.5	132.0	140.9	138.5	140.9	141.2
前期(月)末比	2.5	1.9	6.8	2.5	1.7	0.2
国産分	3.6	4.1	7.4	3.1	1.7	-0.1
素原材料	-3.6	0.6	1.3	3.0	3.6	-1.4
製品原材料	5.4	4.4	7.8	2.8	1.0	-0.2
輸入分	1.6	-4.6	1.8	-0.6	1.6	1.7
素原材料	1.8	-5.4	1.9	-0.6	1.5	1.8
在庫率指数	100.8	101.1	111.6	109.7	111.6	110.7
国産分	98.4	100.6	111.8	109.8	111.8	110.4
素原材料	86.5	87.4	90.7	90.0	90.7	89.2
製品原材料	102.0	104.1	116.3	114.6	116.3	114.3
輸入分	107.6	102.6	107.9	107.0	107.9	111.6
素原材料	108.4	102.9	108.5	107.2	108.5	113.1

(注) 通産省調べ、49年4月は速報。

+6.7%)あと、前月比+0.2%の微増となった。在庫の内訳をみると、輸入素原材料が長期契約分の入着(鉄鉱石)などから引き続きかなりの増加となったものの、国産素原材料は鉄くずの減少を主因にかなり減少した。また国産製品原材料も、在庫不足感に基づく補充買いから化学品(ポリエチレン、ポリスチレン、塩ビ)等は増加したが、需要減退を背景とした繊維2次製品メーカーの糸手当て慎重化(綿糸、毛糸、合繊糸)などが響いて微減となった。

## (販売業者在庫——3月は微増)

3月の販売業者在庫(速報、季節調整済み、前月比)は+0.9%の微増となった。繊維原料、糸、織物等は、実需の減少に対応した流通段階の仕入れ態度慎重化から、それぞれかなりの減少に転じているのに対し、鋼材は建材関係の需要減退からH形鋼を中心に大幅増加、また非鉄、紙、機械器具(家電、自動車)も末端実需の落込みからかなりの在庫積み上がりを見た。

## (設備投資——一般資本財出荷の増勢強まる)

5月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、前月増加(+2.8%)をみたあと+5.8%と増勢を強めた。これは、一部で停滞色を強め

## 販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

	48年(期別)		49年(期別)	49年(月別)		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
総合指数	129.7	133.6	138.0	137.8	136.8	138.0
前期(月)末比	1.5	3.0	3.3	3.5	-0.4	0.9

(注) 通産省調べ、49年3月は速報。

ているもの(自動車・家電関連の射出成形機等)もみられるが、公害防止関連機器(ポンプ、圧縮機・送風機、工業計器等)が好調を続けていることに加え、石油問題発生以降一様に見送られてきた企業の設備投資が、合理化・省力化関連(金属工作機械、コンピューター、電動機等)を中心に復元してきているためとみられる。

5月の機械受注額(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、前月著増(+34.4%)したあとも+13.2%とかなりの増勢を持続した。これは、製造業向けが前月大幅増加の反動もあって微減(-2.3%)となったものの、非製造業向けが電力の大口成約を主因に前月に続き著増(+35.1%)したためである。この間、引合いは、自動車、家電、公共工事関連などでは低迷状態が続いているものの、鉄鋼、化学、石油精製など大型プロジェクトを抱えている業種では、資材価格の落ち着きなどを背景に徐々に増えつつある。

## 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	48年		49年	49年		
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
民需	3,627	4,545	2,236	2,174	3,131	3,486
	(13.3)	(25.3)	(-50.8)	(-6.1)	(44.0)	(11.3)
同(船舶を除く)	2,927	3,985	2,018	1,988	2,673	3,024
	(4.3)	(36.2)	(-49.4)	(-3.2)	(34.4)	(13.2)
製造業	1,830	2,659	1,128	1,153	1,539	1,503
	(16.6)	(45.3)	(-57.6)	(15.0)	(33.4)	(-2.3)
非製造業	1,801	1,926	1,119	1,037	1,556	1,980
	(13.1)	(7.0)	(-41.9)	(-17.7)	(50.0)	(27.2)
同(船舶を除く)	1,122	1,361	903	860	1,130	1,527
	(-9.3)	(21.3)	(-33.6)	(-17.4)	(31.4)	(35.1)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

5月の建設工事受注額(民需、速報、季節調整済み、前月比)は、前2ヵ月増加のあと-6.4%と減少した。もっとも3ヵ月移動平均の前月比で見ると、3月+6.2%、4月+4.6%と引き続き増加傾向にあり、増勢が若干鈍化したかたちとなっている。このように伸び悩みとなっているのは、建設資材価格の落ち着き傾向を映し3~4月にかけて既往引合い分の成約があいついだあと、新規引合いにはいまひとつ盛り上がりを欠いているほか、先行き予想される大型プロジェクト関連工事(電源開発、高炉・エチレンプラント建設等)についても、一部に始動のきざしがみられるものの、まだ成約するまでには至っていないためとみられる。

#### ◇商品市況は引き続き軟調

6月の商品市況をみると、前月上伸の著しかった鉄鋼が月央の値上げ認可後仮需はく落を主因に訂正安商状となり、非鉄金属(銅、鉛)建値がLME相場急落に伴い引き下げられたほか、合繊、セメント、紙・パルプ、石油製品(灯油を除く)、合成樹脂等も引き続き軟弱地合いで推移するなど、全般に軟調な動きを続けた。

これは、①最終需要が引き続き盛り上がりを欠いているうえ、主要業界の減産広範化に伴い中間需要が減退していること、②流通段階の調整も続いていること、などを背景としたものである。ただ、国内需給引緩みの割には、商品市況は総じて小幅の軟化にとどまっている点が特徴的。これは、コスト圧力が強まっているほか、①輸出が引き続き好調で、輸出価格も当面底堅い動きが予想されること(鉄鋼、合成樹脂、洋紙)、②生産財でも自主減産が強化されていること(合繊、綿糸、洋紙)、③末端消費の回復期待に加え7~9月以降の財政線延べ措置緩和に対する期待感が強まっていること(鉄鋼、セメント、木材、銅)、などの事情があるとみられる。このため、すでに一部に底値感台頭の兆しもうかがわれはじめている。

鉄鋼……6月の鋼材市況は月央までは総じて強含みで推移したが、6月18日に高炉メーカーの鋼

材値上げが認可されたのを契機に各品種とも総じて訂正安商状に転じた。

これは、①値上げ認可により先高感が解消したうえ、②店売り価格の引上げ幅が予想より小幅にとどまったため、市況の割高感が強まったこと、などの価格面の要因に加え、供給面でも、③値上げ認可と見返りに棒鋼、厚板等の市況品目の増産(7~9月、約40万トン)が実施されること、④原料炭需給も依然ひっ迫基調ながら4~6月に比べればやや好転が見込まれること、から目先の品薄感が解消、この結果、4月以降の価格高騰の主因となってきた先高感、先行き品薄感に基づく仮需がはく落したことによるものである。

この間、くず鉄については主力需要先の平電炉メーカーの大手筋が、くず鉄価格抑制のため7月から週休2日制採用により減産に踏み切るなど、購入自粛姿勢を強めているため、市況はさすがに軟化した。

繊維……6月中の繊維市況をみると、合繊は引き続き軟調裡に推移、綿糸、そ毛糸等は月央にかけての安値つっ込みのあと月末に至り反発するなど粗い値動きが目だった。

繊維製品の末端消費は、夏物商品が順調な売れ行きを示し、ようやく回復の端緒をつかんだ感が強く、つれて小売直結の流通段階では、予想以上のペースで在庫調整が進んでいる模様。また、これまで見送り気運が強かった大手商社筋の一部にも、秋冬物の仕込み期入りにあたり値ごろ感も手伝って、小口買いを再開する動きがみられる。しかし、一般的には、流通段階の在庫手当ては資金繰り難のおりから引き続き慎重で、夏物商品の荷動き好転も、現在のところは在庫補充、仮需喚起をもたらすには至っておらず、このため、メーカー在庫は依然高水準で推移している。

一方、輸出は、国内過剰玉の一扫をねらった各社の積極姿勢を映して数量的には好調な伸びを示しているが、価格は軟化傾向をたどっている。

かかる状況下、メーカー筋では一段と自主減産を強化、需給の立直しに注力しているが、高水準

の在庫圧縮にはまだかなりの時日を要する見通し。

非鉄金属……6月の非鉄金属市況をみると、銅、鉛が統落し、亜鉛、アルミも月後半軟化するなど総じて軟弱地合いが続いた。

銅、鉛、亜鉛が軟化したのは、LME相場の統落とそれに伴う輸出環境の悪化が主因であるが、銅、鉛については、国内需要の低迷が続いていることも響いている。またこれまで強含みで推移していたアルミがここへきて小幅軟化をみたのは、サッシ、圧延等需要業界の減産が地金段階まで響いて荷余り感が出てきたことに加え、メーカー出し値引上げの早期認可を見越した仮需が認可時期ずれ込みに伴い一部はく落したことなどによるものである。

石油製品……6月の石油製品市況は、家庭用灯油が備蓄促進のため値上げされたほかは、需給の緩和を映じて弱含みに推移した。

すなわち、需要が落ち着き傾向を強めているのに対し原油の入着が予想外に順調なことから、メーカー、元売りの段階では在庫が急速に積み上がっており、これまでの供給抑制姿勢を続けるのが困難となってきたため需給は一段と緩和し、つれて市況は弱含みに推移した。

セメント……セメントの出荷は、5月に前年同月比4%減と低迷を続けたあと、6月入り後も20日までで前年同期比13%減と一段と不振、在庫も再び増加に転じた。

こうした出荷不振の背景としては、本年の降雨量が例年に比して多いことなどの特殊事情もあるが、基本的には総需要抑制策の効果もあって、建設工事が官民ともに不振を続けているため、生コン向けが低調なほか、大口需要先のコンクリート・パイル等2次製品メーカー筋に減産が広まっていることがあげられる。このため、市況は袋物の末端価格が統落しているほか、バラ物についても流通マージン圧縮のかたちで小幅軟化となった。

木材……内地材が底堅さを加えたほか、これまで下落を続けてきた外材も米材については下げ止

まりとなり、総じて底固め商状となった。これは、①内地材については、能力比3~5割減の大幅減産が継続されているため市場への入荷が極端に細っていること、②外材についても、最近の商社筋の輸入抑制努力が奏功して、目先7月以降の入着が5~6月の2~3割減程度に落ち込むことが明らかとなったこと、③こうした供給減を背景として、流通段階では、底値感の浸透かたがたこれまでの仕入れ手控えにより金繰り難が緩和したこともあって売り腰を引き締めていること、などがあげられる。

化学品……合成樹脂の市中相場は、前月に続き弱保合いで推移した。これは、供給面で、メーカー筋がエチレン等原料入手の円滑化から順調な生産を続けているのに対し、需要面では自動車(シート用軟質ビニール等)・家電(ポリスチレン等)関連が停滞色を強めているうえ、これまで品薄傾向が残っていたパイプ関連(硬質塩ビ等)も、公共工事繰延べの影響などからパイプ・メーカーが原料手当て量を削減する動きをみせたことなどにより、一部には荷もたれ感が強まるなど需給緩和が進んだためである。なお、6月中旬には、一部の中間原材料B T X(ベンゼン、トルエン、キシレン)の値上げが認可されたため、今後、これらを原料とする各種製品(合繊、合成ゴム、合成洗剤、ポリスチレン等)への値上げ波及が予想されている。

一方、基礎薬品類については、一部紙・パルプ、化繊向け(カセイソーダ)や合板関連(メタノール)などで需要減退がみられているが、肥料向け(硫酸)が一段と好調なのをはじめ、全般に需要は底堅い動きを続けている反面、供給面では、6~7月に大手メーカーのあいづく設備定修もあって生産、出荷とも伸び悩み傾向にあることから、市況は総じて堅調を持続した。

紙……6月の市況をみると、クラフト紙は一部にメーカー建値の引上げがみられたが、その他は総じて弱保合いで推移し、白板紙は小幅統落となった。

これまで比較的しっかりした推移をたどってきた上質紙が弱含みに転じたのは、①商業印刷向けが不振なアート・コート紙などから生産転換が行われたこと、②紙不足時に成約した輸入紙が入着したこと、③ユーザーも当用買いに徹していること、などから需給がやや引緩みをみているためである。また、板紙は繊維、冷菓等の荷動き停滞を背景に需要が極端に落ち込み、大幅な減産にもかかわらず在庫は累増している。この間、ロール紙も減産に踏み切る向きがみられ、白板紙についても、一部に投げ売りがみられた。

砂糖……国内相場(現物)は前月からの強基調を続け、月中5円程度上伸した。

これは、①農林省の値上げ認可が遅れているため、メーカー各社が原糖手当てを手控えるとともに、溶糖量を抑制して手持ち原糖の食い延ばしを

図っていること、②業務用大袋については各社とも値上げに踏み切り、農林省が価格凍結している家庭用小袋についても一部で値上げの動きがあること、③末端でも仮需が盛り上がったこと、などによる。

#### (卸売物価——再び騰勢強まる)

卸売物価は、5月に前月比+0.6%(前年同月比+35.3%)と引き続き落着きぎみに推移したあと、6月に入ってからは、上旬に電力料金の大幅上げを主因に前旬比+1.3%と再び騰勢を強めた。もっとも、中旬には海外相場安を映じた非鉄金属の下落などから前旬比-0.1%と小幅の反落をみえた。

品目別にみると、雑品目(電力を含む)が上旬に高騰したほか、石油・石炭・同製品、鉄鋼、食料品が上、中旬とも上伸した反面、繊維製品、非鉄

### 卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	48年	49年	49年			49年5月			49年6月	
		10~12月 平	1~3月 均	3月	4月	5月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
総 平 均	100.0	8.7	14.6	0.7	0.7	0.6	0.5	- 0.1	0	1.3	- 0.1
食 料 品	13.4	5.6	8.5	0.1	0.6	1.1	1.3	0.1	- 0.2	0.6	0.5
非食料農林産物	2.4	4.8	10.4	- 3.8	- 3.9	- 1.2	- 0.2	- 0.9	- 0.9	- 0.3	- 0.4
織 維 製 品	7.8	2.1	3.6	- 2.6	- 2.4	- 0.9	0.4	- 0.9	- 0.9	- 1.2	- 1.1
製 材・木 製 品	3.8	6.3	9.5	- 3.1	- 4.5	- 2.0	- 0.6	- 0.2	- 0.1	- 0.2	- 0.2
パルプ・紙・同製品	2.8	22.5	26.4	- 1.3	0.1	- 0.2	0	0.1	- 0.4	0.1	0
金 属 素 材	1.9	10.7	18.1	6.4	4.1	4.7	3.2	- 1.4	- 1.3	- 0.5	- 1.3
鉄 鋼	9.4	9.2	8.0	- 0.1	1.0	2.5	1.0	0.1	1.0	1.1	0.5
非 鉄 金 属	4.2	15.4	20.0	6.8	2.7	- 1.2	1.3	- 2.3	- 3.6	- 0.7	- 2.4
金 属 製 品	3.8	9.8	22.5	0.8	1.0	0.7	0.3	0.1	0.4	1.0	- 0.1
電 気 機 器	9.0	3.9	10.1	1.4	0.1	0	0.1	0	0.2	1.1	0
輸 送 用 機 器	6.8	4.7	12.6	0.8	- 0.2	0.2	0	0.1	0.1	1.0	0.6
一 般・精 密 機 器	10.8	6.4	12.9	1.0	0.6	1.1	0.3	0	0.6	0.3	0.2
化 学 製 品	8.8	17.8	19.2	- 0.7	0.3	- 0.3	- 0.3	0.3	0.1	0.6	0.1
石 油・石 炭・同 製 品	4.6	15.9	52.3	8.6	9.6	3.7	0.8	1.1	1.8	2.8	0.1
窯 業 製 品	3.1	10.1	20.5	0.6	0.4	0.2	0	0.2	- 0.1	0	0.1
雑 品 目	7.6	10.2	14.4	0	- 0.3	0.3	0.1	0.1	- 0.1	9.3	0
工 業 製 品	85.5	8.7	13.6	0.7	0.7	0.4	0.3	- 0.1	0	0.5	- 0.1
大 企 業 性 製 品	63.3	8.7	13.6	1.2	1.4	0.5	0.4	- 0.1	0.1	0.5	0
中 小 企 業 性 製 品	20.1	8.5	13.8	- 0.9	- 1.4	- 0.2	0.4	0	- 0.4	0	- 0.2
非 工 業 製 品	14.5	8.5	20.5	1.0	1.6	1.8	0.9	0	0.1	5.0	- 0.1

(注) 日本銀行調べ。

金属、金属素材等は上、中旬とも続落となった。

(工業製品生産者物価——前月比保合い)

5月の工業製品生産者物価は、前月比保合いと落ち着いた動きを示した。品目別にみると、食料品、一般・精密機器、石油・石炭製品が上昇した反面、繊維製品、製材・木製品等が続落した。

(消費者物価——6月<東京都区部、速報>は再び上伸)

6月の消費者物価(東京都区部、速報)は、野菜が前月に引き続き大幅に値下がりしたものの、電気料金の引上げ、灯油の値上がりを主因に光熱費が大幅に上昇したのをはじめ、夏物衣料の値上がりから被服費も続騰したため、総合では前月比+0.8%(前月同+0.1%)、前年同月比+21.9%と再び上伸した。

もっとも、季節商品を除く総合では、前月比+1.0%と騰勢はやや鈍化した(前月同+1.8%)。

5月の全国消費者物価は、酒類、衣料がかなり

上昇したにもかかわらず季節商品が野菜の急落を主因に下落したため、総合では前月比+0.3%(前年同月比+23.1%)と前月大幅上昇(前月比+2.7%)のあと騰勢一服。もっとも、季節商品を除く総合では、前月比+1.6%(前年同月比+23.6%)と根強い騰勢を持続した。

(輸出入物価——続騰)

5月の輸出入物価は、繊維品が続落したものの、金属・同製品、化学製品の大幅続騰を主因に前月比+2.0%(前月同+2.0%)と根強い騰勢を持続(前年同月比+35.9%)。また輸入物価は、繊維品、木材・同製品が続落したものの、原料用炭の高騰などを映じた鉱物性燃料の大幅上昇のほか食料品も上昇したため、前月比+2.5%(前月同+2.6%)と続騰(前年同月比+74.8%)。

この結果、5月の交易条件指数(73.6、45年=100)は前月比-0.4%と7ヵ月連続の悪化(前月同-0.7%)。

### 消費者・輸出入物価指数の推移

(単位：%)

	ウエイト	48年		49年		49年			最近月の前年同月比
		10~12月平均		1~3月平均		4月	5月	6月	
消費者物価	総合	100.0	3.2	9.4	3.0	0.1*	0.8	* 21.9	
	(季節商品を除く)	91.3	3.9	7.9	1.9	1.8	1.0	21.3	
	食料	40.3	2.9	13.5	3.7	-2.6*	0.1	23.7	
	住居	11.8	5.3	11.9	1.9	-0.6	0.3	26.5	
	光熱	3.7	1.7	1.7	0	0	13.8	17.7	
	被服	12.4	6.4	4.3	1.1	6.9	2.1	26.9	
	雑費	31.8	1.5	5.9	3.9	0.6	0.1	15.9	
	特殊分類								
	農水畜産物	16.6	-0.4	16.1	7.9	-9.4	...	14.8	
	工業製品	43.6	6.2	10.7	1.3	2.9	...	28.2	
	うち大企業製品	19.8	4.9	11.7	2.1	1.0	...	23.9	
	中小企業製品	23.8	6.9	10.2	0.8	4.3	...	31.3	
	サービス	37.0	1.6	5.0	3.1	1.1	...	15.8	
全国	総合	100.0	4.5	9.9	2.7	0.3	...	23.1	
(季節商品を除く)	91.0	5.2	8.7	1.9	1.6	...	23.6		
輸出入物価									
輸出			9.0	13.6	2.0	2.0	...	35.9	
輸入			9.4	31.3	2.6	2.5	...	74.8	
交易条件			-0.2	-13.1	-0.7	-0.4	...	-22.2	

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局調べ、輸出入物価は日本銀行調べ。  
2. \*印は速報。

### ◇国際収支は季節要因もあり 大幅赤字

5月の国際収支は、総合収支で1,002百万ドルの赤字と前月(同760百万ドル)に比し赤字幅を拡大した。

これは、貿易収支の赤字が季節要因から569百万ドルと前月(379百万ドル)に比しかなり拡大したうえ、貿易外収支の赤字も貿易関連支払の増加を主因に引き続き多額にのぼり、また、長期資本収支の流出超幅も対日証券投資の流出増や外国からの借款の返済などから前月を上回ったためである。

もっとも、5月の貿易収支を季節調整後で見ると、輸入が、原油の増勢鈍化にもかかわらず、一部食料品、非鉄金

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	48 年		49 年	49 年			48年5月
	7～9月	10～12月	1～3月	3 月	4 月	5 月	
経 常 収 支	101	△ 315	△ 3,262	△ 843	△ 823	△ 1,074	△ 316
貿易収支	1,005	1,040	△ 1,850	△ 376	△ 379	△ 569	59
輸 出	9,427	10,910	10,123	4,204	4,169	4,537	2,780
輸 入	8,422	9,870	11,973	4,580	4,548	5,106	2,721
貿易外収支	△ 842	△ 1,263	△ 1,358	△ 453	△ 435	△ 478	△ 322
移 転 収 支	△ 62	△ 92	△ 54	△ 14	△ 9	△ 27	△ 53
長期資本収支	△ 2,392	△ 2,897	△ 1,621	△ 325	△ 164	△ 248	△ 975
本邦資本	△ 2,308	△ 2,441	△ 1,275	△ 284	△ 192	△ 189	△ 579
外国資本	△ 84	△ 456	△ 346	△ 41	28	△ 59	△ 396
基礎的収支	△ 2,291 (△ 2,816)	△ 3,212 (△ 3,816)	△ 4,883 (△ 4,249)	△ 1,168 (△ 1,464)	△ 987 (△ 872)	△ 1,322 (△ 792)	△ 1,291 (△ 1,030)
短期資本収支	759	72	840	424	△ 27	98	430
誤差脱漏	△ 578	△ 713	△ 132	△ 278	254	222	△ 324
総 合 収 支	△ 2,110	△ 3,853	△ 4,175	△ 1,022	△ 760	△ 1,002	△ 1,185
金 融 勘 定	△ 2,110	△ 3,853	△ 4,175	△ 1,022	△ 760	△ 1,002	△ 1,185
外貨準備増減	△ 405	△ 2,549	180	526	287	454	△ 965
そ の 他	△ 1,705	△ 1,304	△ 4,355	△ 1,548	△ 1,047	△ 1,456	△ 220
外 貨 準 備 高	14,795	12,246	12,426	12,426	12,713	13,167	15,869
為 銀 対 外 ポ シ ョ ン	△ 2,158	△ 3,465	△ 7,869	△ 7,869	△ 8,927	△ 10,313	△ 215

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
48年7～9月	3,038 (+ 4.8)	2,878 (+ 12.6)	160	3,120 (+ 6.0)	3,427 (+ 13.6)	2,423 (+ 6.7)	3,335 (+ 9.8)	3,820 (+ 9.2)
10～12月	3,395 (+ 11.8)	3,250 (+ 12.9)	145	3,447 (+ 10.5)	3,858 (+ 12.6)	2,543 (+ 4.9)	3,697 (+ 10.9)	4,398 (+ 15.1)
49年1～3月	3,694 (+ 8.8)	4,100 (+ 26.2)	△ 406	3,759 (+ 9.0)	4,751 (+ 23.1)	3,014 (+ 18.4)	3,956 (+ 7.0)	5,671 (+ 29.0)
49年 2月	3,783 (+ 4.8)	4,418 (+ 25.5)	△ 635	3,851 (+ 3.6)	5,091 (+ 22.0)	2,953 (+ 0.5)	3,821 (- 2.8)	6,814 (+ 39.7)
3月	3,689 (- 2.5)	4,361 (- 1.3)	△ 672	3,707 (- 3.7)	4,989 (- 2.0)	3,151 (+ 6.7)	4,117 (+ 7.7)	5,321 (- 21.9)
4月	4,169 (+ 13.0)	4,433 (+ 1.7)	△ 264	4,291 (+ 15.8)	5,102 (+ 2.3)	3,034 (- 3.7)	4,636 (+ 12.6)	6,664 (+ 25.2)
5月	4,814 (+ 15.5)	4,853 (+ 9.5)	△ 39	4,894 (+ 14.1)	5,551 (+ 8.8)	3,561 (+ 17.4)	4,970 (+ 7.2)	5,944 (- 10.8)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。



属鉱、木材等の伸長もあって前月比+9.5%とかなり増加したものの、輸出が鉄鋼、自動車、一般機械等を中心に同+15.5%と著伸したため、収支じりではほぼトントン(赤字39百万ドル)と前月(赤字264百万ドル)に比し大幅に好転した。

長期資本収支の流出超幅は、248百万ドルと前月(同164百万ドル)に比べ若干拡大した。これは、本邦資本面で対外直接投資や本邦為銀の中・長期ローンの着きなどから189百万ドルの流出超と前月(同192百万ドル)並みの流出超にとどまったものの、外国資本面で対日証券投資の流出超が拡大したほか、借款の大口返済などがみられたため、59百万ドルの流出超(前月流入超28百万ドル)となったことによる。

一方、短期資本収支は、原油輸入ユーザンス決済の増高にもかかわらず、BCユーザンス享受の大幅増を主因に98百万ドルの流入超(前月流出超27百万ドル)となった。

金融勘定では、為銀ポジションはユーロ・マネー取入れおよび外銀借入れの著増から1,465百万ドルの大幅悪化を示し、5月末の負債超過額は、10,313百万ドルとついに100億ドル台乗せを記録した。この間、外貨準備は454百万ドル増と4か月連続増加し、月末残高は13,167百万ドルとなった。

#### (輸出—数量の増勢強まる)

5月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整後で前月比+15.5%と著伸、また、原計数の前年同月比も+63.2%(通関ベース、同+63.5%)と既往最高の伸びを示した(通関ベースの邦貨表示額では同+71.4%、前月同+58.6%)。

品目別(通関ベース)にみると、鉄鋼が著増したのをはじめ、自動車、船舶、繊維、化学製品等軒並み高い伸びを示した。

通関輸出の前年同月比伸び率を数量と価格に分けてみると、輸出価格は鉄鋼、化学製品等を中心に前年比+36%と引き続き高い伸びを示し、また、数量ベースでも鉄鋼、船舶、自動車等の主力商品をはじめ、繊維(合繊糸、綿織物)、一部家電

製品(テレビ、テーブ・レコーダー)等広範囲にわたり好伸したため、同+20%と46年11月(同+25%)以来の高い伸びとなり、内需の停滞等を映じた企業の輸出意欲の高まりがうかがえる。

地域別にみると、東南アジア、中南米、中近東などの発展途上地域向け(前年同月比+66%)が好調を維持しているほか、米国を中心とする先進地域向けも鉄鋼の急増を主因に伸び率を高めた(5月同+57%、4月同+36%)。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は、5月に+17.4%と著伸したあと6月は-2.0%と若干減少した。しかし、4~6月通計では前期比+11.6%と高い伸びとなり、鉄鋼、化学製品、繊維等を中心に強調を続けている(原計数の前年同月比+44.5%、5月同+58.8%)。

#### (輸入—高水準)

5月の輸入(国際収支ベース)は、季節調整後で前月比+9.5%とかなり増加、原計数の前年同月比でも+87.7%(通関ベース、同+83.3%)となった(通関ベースの邦貨表示額では同+92.3%、4月同+99.2%)。

品目別(通関ベース)にみると、高価格原油の輸入(1,690百万ドル、前年同月比+267%)がほぼ前月(1,675百万ドル)並みにとどまったものの、非鉄金属鉱、木材、一部食料品(飼料、小麦等)等が価格上昇や季節事情による入着集中などから大幅増加をみた。

通関輸入額の前年同月比伸び率を数量と価格に分けてみると、輸入価格は原油がきすかに騰勢鈍化(通関単価4月10.94→5月11.37ドル/バレル、前年同月比+277%)をみているものの、非鉄金属鉱、食料品(小麦、砂糖等)等が騰勢を強めたため、前年比+75%(前月同+75%)と引き続き著伸した。一方数量ベースでは、繊維原料(羊毛、綿花)、一部食料品(肉類)等の落込みもあり、同+5%と前月(同+9%)に比し一段と低い伸びにとどまった。

地域別には、中近東、東南アジアを中心とする発展途上地域からの輸入が原油を中心に高水準を

持続(3,143百万ドル、前年同月比+130%)したが、先進地域も、カナダからの非鉄金属鉱輸入の急増などあって高い伸び(2,478百万ドル、同

### 通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	48年		49年		49年	
	7~9月	10~12月	1~3月	4月	5月	
食料品	221 (+17)	281 (+46)	204 (+26)	53 (-8)	66 (+13)	
魚介類	147 (+3)	194 (+60)	149 (+67)	34 (+2)	38 (+15)	
繊維・同製品	844 (+9)	987 (+20)	845 (+27)	343 (+40)	355 (+34)	
合繊糸	112 (+23)	137 (+25)	121 (+30)	46 (+34)	55 (+58)	
綿織物	47 (-24)	61 (-7)	48 (+15)	23 (+55)	22 (+43)	
合繊織物	264 (+23)	307 (+25)	262 (+33)	108 (+48)	105 (+35)	
化学製品	550 (+19)	622 (+21)	656 (+45)	272 (+64)	314 (+82)	
非金属鉱物製品	155 (+21)	159 (+22)	143 (+28)	54 (+18)	65 (+34)	
金属・同製品	1,734 (+35)	2,156 (+48)	2,113 (+56)	838 (+71)	1,127 (+116)	
鉄鋼	1,346 (+41)	1,709 (+60)	1,663 (+61)	637 (+72)	847 (+110)	
機械機器	5,340 (+34)	6,065 (+34)	5,547 (+32)	2,375 (+48)	2,330 (+52)	
(船舶を除く)	4,292 (+28)	4,870 (+28)	4,569 (+34)	1,741 (+36)	1,907 (+43)	
事務用機器	209 (+68)	251 (+61)	158 (+2)	56 (+2)	63 (+1)	
テレビ	172 (+9)	146 (+4)	151 (+10)	58 (+7)	71 (+45)	
ラジオ	344 (+17)	346 (+17)	277 (+16)	110 (+15)	124 (+22)	
自動車	885 (+27)	1,044 (+22)	1,099 (+36)	421 (+48)	453 (+43)	
二輪自動車	220 (+15)	255 (+17)	308 (+69)	107 (+65)	93 (+52)	
船舶	1,047 (+64)	1,195 (+62)	978 (+20)	633 (+97)	423 (+115)	
光学機器	260 (+27)	284 (+29)	282 (+50)	101 (+38)	118 (+55)	
テープレコーダー	211 (+19)	214 (+8)	165 (+5)	57 (-2)	72 (0)	
その他	786 (+16)	838 (+19)	792 (+32)	308 (+47)	361 (+59)	
合計	9,630 (+28)	11,108 (+33)	10,318 (+37)	4,263 (+51)	4,619 (+64)	
(船舶を除く)	8,583 (+25)	9,913 (+30)	9,344 (+39)	3,610 (+45)	4,196 (+60)	

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

### 通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	48年		49年		49年	
	7~9月	10~12月	1~3月	4月	5月	
食料品	1,558 (+76)	1,898 (+83)	1,783 (+69)	667 (+62)	818 (+54)	
肉類	247 (+171)	232 (+91)	146 (+33)	42 (-35)	49 (-36)	
魚介類	266 (+89)	337 (+100)	216 (+55)	69 (+1)	101 (+11)	
小麦	163 (+84)	200 (+85)	268 (+101)	101 (+187)	157 (+137)	
とうもろこし	141 (+116)	200 (+125)	210 (+102)	76 (+88)	84 (+121)	
砂糖	120 (-5)	136 (+29)	140 (+83)	66 (+169)	78 (+128)	
原燃料	5,236 (+62)	6,098 (+66)	8,447 (+108)	3,280 (+112)	3,701 (+108)	
羊毛	276 (+130)	249 (+72)	226 (+2)	44 (-53)	47 (-57)	
綿花	149 (+19)	172 (+21)	262 (+34)	88 (+43)	105 (+60)	
鉄鉱石	425 (+30)	456 (+26)	533 (+35)	167 (+54)	152 (+11)	
鉄鋼くず	118 (+346)	84 (+130)	77 (+5)	32 (+3)	45 (+34)	
非鉄金属鉱	576 (+112)	541 (+87)	632 (+96)	212 (+48)	356 (+130)	
大豆	216 (+87)	194 (+51)	228 (+66)	87 (+32)	88 (+12)	
木材	813 (+89)	982 (+98)	911 (+46)	298 (+5)	388 (+19)	
石炭	340 (+21)	387 (+36)	414 (+46)	175 (+59)	172 (+35)	
原油	1,508 (+53)	2,004 (+76)	3,818 (+233)	1,675 (+307)	1,690 (+267)	
化学製品	452 (+52)	646 (+99)	667 (+89)	260 (+110)	263 (+87)	
機械機器	930 (+54)	1,032 (+57)	1,140 (+51)	434 (+72)	416 (+61)	
航空機	96 (+58)	41 (-30)	168 (+119)	101 (10倍)	38 (+530)	
その他	1,797 (+111)	1,974 (+102)	1,859 (+73)	670 (+43)	731 (+39)	
合計	9,973 (+70)	11,648 (+75)	13,934 (+91)	5,328 (+90)	5,929 (+83)	
工業用原料	6,585 (+68)	7,747 (+74)	10,100 (+101)	3,886 (+102)	4,353 (+99)	
消費財	2,462 (+85)	2,895 (+88)	2,685 (+76)	999 (+59)	1,153 (+47)	
一般消費財	630 (+109)	713 (+110)	650 (+91)	244 (+92)	239 (+45)	
資本財	860 (+51)	933 (+54)	1,048 (+51)	401 (+74)	385 (+63)	

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

+46%)となった。

6月の輸入承認・届出額(季節調整済み、前月比)は、5月-10.8%のあと-2.7%となった。鉄鋼原材料が強調、原油が高水準ながら、非鉄金属鉱、木材、大豆等は落ち着いた動きを示した。

5月の輸入素原材料在庫率指数(45年=100)は、同在庫(季節調整済み、前月比)が-2.2%と落ち込んだ反面、同消費は+3.4%と上昇したため、106.9と前月に比し、6.2ポイントの大幅下落となった。